

16%は職場でマタハラを経験！ 40歳以下の半数以上は妊娠により退職！！ ～ワーキングマザーへのアンケートと、副社長の1日妊婦疑似体験記～

政府の成長戦略の中にあげられている、「女性が輝く日本」。しかし、世界経済フォーラムが毎年発表している「グローバル・ジェンダー・レポート」(2014年度)によると、女性の社会進出度の日本の総合ランキングは142カ国中104位と、先進国の中で非常に低い水準です。そんな中、最近では「マタハラ」という言葉とともに、妊娠・出産における女性の働き方が取りざたされ、政府はそれらを防止するための関連法案も国会へ提出の予定です。保険ショップ『保険クリニック』では、妊娠・出産経験のある20～40歳の女性500名を対象に、妊娠・出産と仕事についてアンケートを実施しました。またそれを受けて、運営するアイリックコーポレーションの女性社員による座談会と、男性役職者による「1日妊婦疑似体験」も実施しました。

■一般女性への調査結果概要

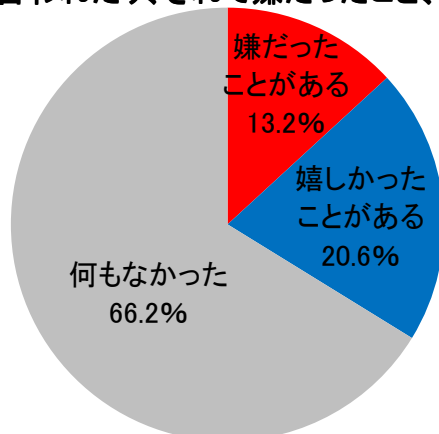
- ・妊娠中、言われたりされて嬉しかったことがある人の方が多い一方、**10%以上の人は、嫌な事を言われたりされたりした**経験がありました。
- ・全体の**16%にあたる80人が職場でマタハラ**を受けており、最も多かったのは「解雇や契約打ち切りの話をされた」で、契約社員や派遣社員に比較的多い回答でした。
- ・妊娠後も、半数以上が8時間以上の勤務を続けており、産休までや妊娠8ヶ月以降も働いていた人が、約62%(313人)を占めました。
- ・**妊娠後、退職したという人は52%で、産休・育休を利用した人は40%未満でした。**
- ・一度退職した後に仕事に復帰した人は79人で、子どもが2歳7ヶ月～3歳の頃という回答が最多でした。

■女性社員座談会概要

- ・勤務先や市町村の制度などの情報は、教えてもらえるものではないので**自分で勉強する必要がある**とアドバイスがありました。
- ・働く妊婦に対する配慮は、男女差よりも、その個人による気づき等が大きいとの意見がありました。
- ・40歳以下でも共働き世帯は半数以上と言われているにも関わらず、妊娠による退職者が多いのは、男性の長時間労働等により女性に負担がかかっている事も懸念されるという意見がありました。
- ・働くママは、**保育園の親同士**の他にも**市町村の子ども向けイベント**などを、交流や情報収集の場として活用していました。

■調査内容抜粋(一般女性)

Q. 言われたり、されて嫌だったこと、嬉しかったことはありますか。



【嬉しかったこと】

- ・力仕事や重たい物を持つとき、代わってくれた。
- ・身体をみんなが気遣ってくれた。
- ・妊娠しても今までどおりに仕事を与えてくれた。
- ・みんなが喜んでくれた。
- ・産後落ち着いたら職場復帰してね！と言われた。

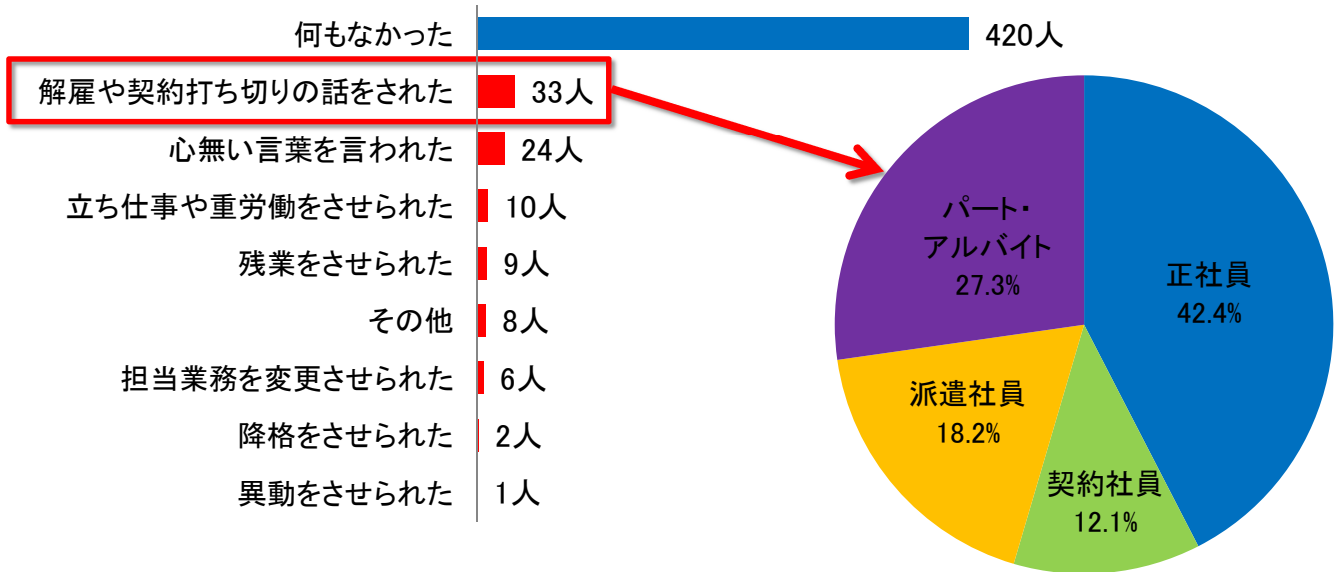
【嫌だったこと】

- ・退職や契約打ち切りの話をされた。
- ・妊娠は病気じゃないと言われ、仕事の配慮がなかった。
- ・妊婦がいるのに周りでたばこを吸うこと。
- ・休む可能性があるからと、いつもの仕事をさせてもらえない。
- ・楽よね！子供がいると得だよね！と言われた。



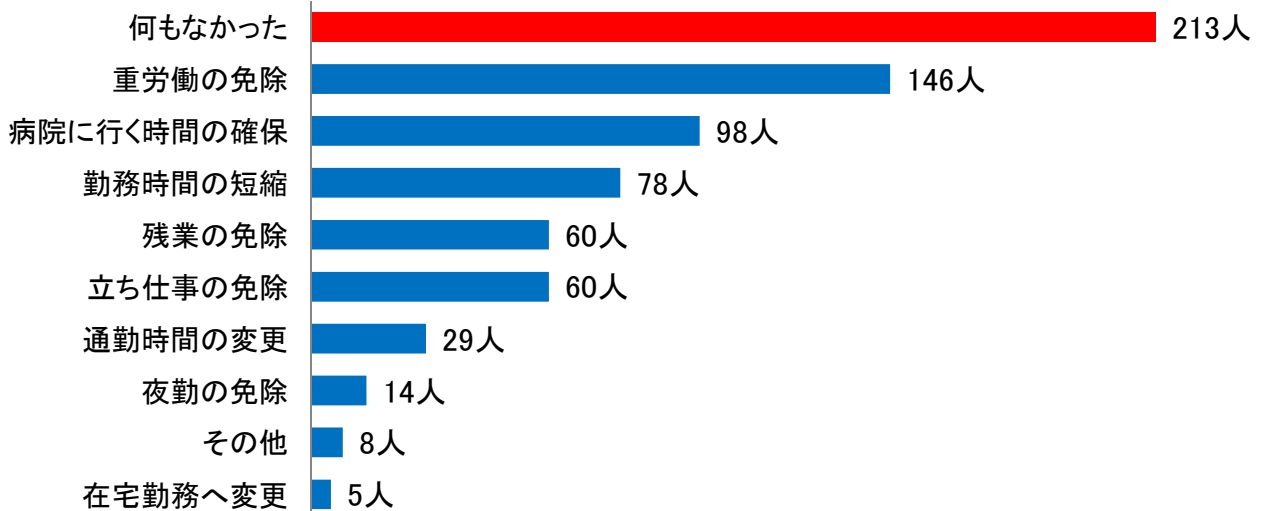
【本件に関するお問い合わせ】

株式会社アイリックコーポレーション 広報宣伝部 山本
 TEL: 03-5840-9561 E-mail: branding@irrc.co.jp

Q. 妊娠中に職場で不当な取り扱いや嫌がらせがありましたか。(いくつでも)

16%がマタハラ経験者！

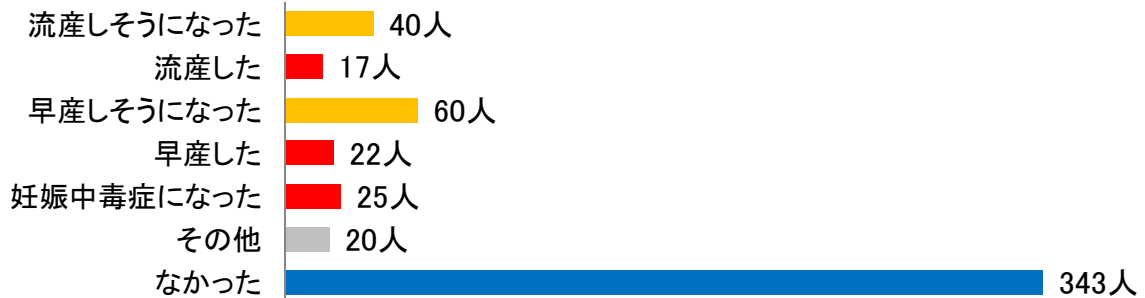
『マタハラ』とはマタニティハラスメントの略で、働く女性が妊娠・出産などをきっかけに職場で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、妊娠・出産を理由とした解雇や雇い止め、自主退職の強要で不利益を被ったりするなどの不当な扱いを意味することばです。

今回のアンケートでは全体の16%にあたる80人がマタハラにあっていたことが分かりました。その内の41.3%(33人)が解雇や契約打ち切りの話をされています。これは契約社員や派遣社員に比較的多い回答でした。

Q. 妊娠中に職場から配慮はありましたか。(いくつでも)


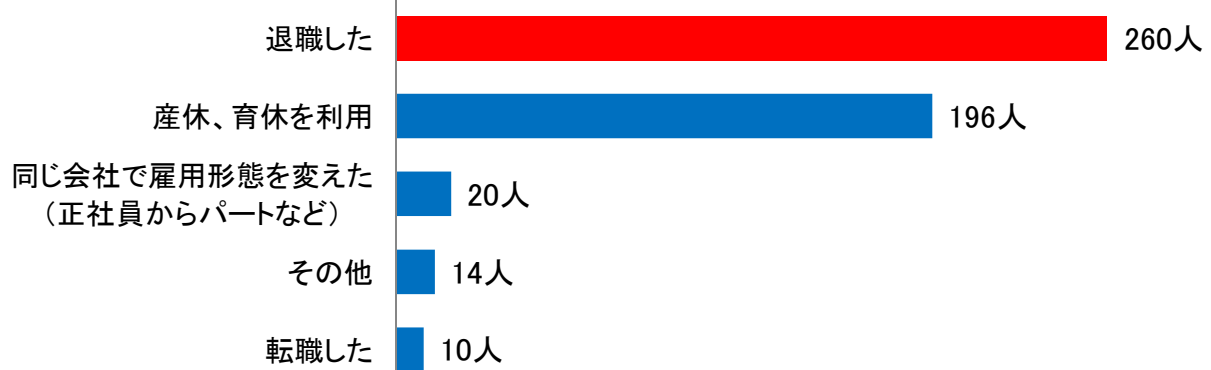
妊娠中に職場からの配慮があったか聞いたところ42.6%(213人)は「何もしない」だったことが分かりました。配慮があった287人の中で多かったのが、①重労働の免除:50.9%、②病院に行く時間の確保:34.1%、③勤務時間の短縮:27.2%となりました。

Q. 妊娠中にトラブルはありましたか。(いくつでも)



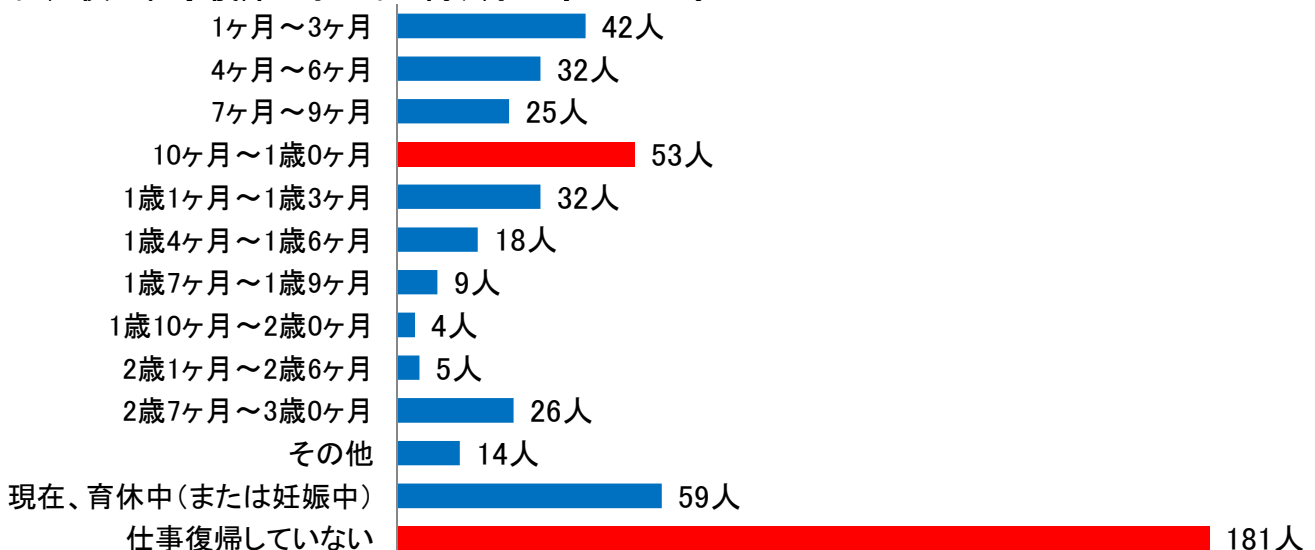
妊娠中にトラブルがあったか聞いたところ、31.4% (157 人) に何らかのトラブルがあったことが分かりました。その中でも多かったのが「早産しそうになった」の 38.2%。そのうち正社員が 61.7% を占めていました。その他の意見では不正出血や貧血、悪阻などがあげられています。

Q. 妊娠後の仕事はどうしましたか。現在妊娠中の方は予定をお知らせください。



妊娠・出産後の仕事をどうしたのか聞いたところ 52% (260 人) は退職。産休・育休を利用したのは 39.2% (196 人) でした。正社員 260 人の中で産休・育休を利用した人は 61.2% (159 人) にのびります。契約社員、派遣社員、パート・アルバイトの方になると、利用できたのは 15.4% (37 人) のみとすることが分かりました。

Q. 出産後の仕事復帰は子どもが何ヶ月の時でしたか。



出産後の仕事復帰は子どもが何歳の時だったか調べてみると、最も多かったのは「仕事復帰していない」で 36.2% (181 人)、続いて育休明け 10.6% (53 人)、産休明け 8.4% (42 人) でした。

※産休明けは産後 8 週間、育休明けは子どもが 1 歳まで(一定の場合は 1 歳 6 カ月まで)。

一度は退職したけど、仕事に復帰した人は 79 人。その中で一番多かったのは子どもが 2 歳 7 ヶ月～3 歳でした。

政府の成長戦略の中に、女性の社会復帰を後押しする政策が盛り込まれていますが、女性が出産後に仕事復帰するには、まだまだ多くの課題が残されています。

子どもの預け先の問題や会社の中での育ママに対する制度や社内の理解、さらには夫やその職場の理解など、子育てと仕事が両立できる社会にするには多くの人の協力がとても大切です。

※一般女性へのアンケート調査方法

サンプル数 : 女性 500 名

年 齢 : 20 歳～40 歳

調査方法 : Web アンケート

調査期間 : 2015 年 6 月 1 日～6 月 2 日

妊娠が分かった時の勤務形態

正社員 52.0%

契約社員 6.8%

派遣社員 8.0%

パート・アルバイト 33.2%

※本リリースの調査結果や分析をご利用いただく際は『保険クリニック調べ』と明記ください。

■男性役職者による 1 日妊婦疑似体験

女性 500 名へのアンケートより、産休取得時まで 8 ヶ月や 9 ヶ月と長い期間働いている人が多かったことや、当社でも 4 月に 3 名の女性社員が育児休業から復帰し今後も産休取得予定者を控えていることから、男性の役職者が妊婦疑似体験キットを装着して 1 日業務を行いました。体験当日は、妊娠 7 ヶ月以降に相当する 5kg の重りを装着し、会議や事務作業など通常の業務をこなしました。今後も、男性役職者を中心に毎月リレー形式で疑似体験を継続予定です。

体験者: 取締役副社長 COO 半澤勝広

～1 日妊婦疑似体験スケジュール～

9:00 体験キットを装着
 9:30 朝礼にて体験を報告
 10:00～13:00 会議
 13:00～14:00 昼食、昼寝体験
 14:00～16:00 会議
 16:00～17:00 通常業務



～体験者コメント～

1 日装着した重みが背中から腰にかけてと、首回りにきています。

一番辛かったのは、朝礼の際などにずっと立っていることです。

座っている時は、いつもより良い姿勢を保たないといけなと気づきました。猫背がちになるとお腹が圧迫されるし、脚も組めませんでしたね。歩く時も、がに股でゆっくりになってしまう気持ちもよく分かりました。

男性と女性では元々の筋力が違うので何とも言えませんが、家事の中でも、買い物をお腹でするのは辛いと思いました。ずっと寝転がっていたくなりそうです。

産休取得予定者などが部下にいる人は、ぜひ体験してみしてほしいです。



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社アイリックコーポレーション 広報宣伝部 山本

TEL: 03-5840-9561 E-mail: branding@irrc.co.jp